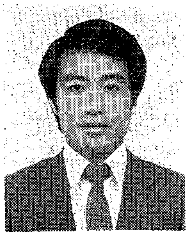
絵心のわかる何でも屋さん

片山憲一



地方自治体の職員となって10年余．都市計画から，側溝の修繕まで，何でも経験したつもりでいる．イメージの暗い北九州市を，……どれ程かでもグレードマップ出来れば……，と入職したことが，昨日のことのように思える．

新しい技術を引っ下げて海外で活躍する同僚や，新素材の研究を進める学者人．建設行政で手腕を振う政策者．そして，現場で物を作る職人さん．皆んな土木屋さんであり，それぞれが，スペシャリストたちである．

しかし，われわれ自治体人は常に，ジェネラリストでなければならない．市民の要求は，日常的な多様な利害であり，行政の政策は，「さわやか都市づくり」等という，曖昧模糊としたものである．

私は今，現場で「ロードピア作り」を担当している．この主旨は，住区内の交通安全の確保と，快適な歩行者空間を創出するものである．プランニング時における歩行者動線，交通事故調査から，景観軸線の探索．公園との一体性の検討．沿道宅地との取り合わせによる高さ設定．身障者や住民の年令層を考慮した舗装材の選定．沿道店舗のマーケッティングリサーチ．これらの結果を頭に入れた上での住民との話し合い．警察・消防協議そして道路占用者との協議．やっとアウトラインが決まれば，実施設計づくり．その後積算に明け暮れる．工事発注．工事期間中の工法等について沿道住民と話し合い．

舗装材の色は？　植栽の樹種は？　完成後の維持管理体制づくり．やっと完成．しかし，道路植栽による落葉や飛来する水鳥のフン，騒音公害の苦情が続出する．また他ブロックへ不法駐車車輌が移動した……等々．市民サービスの本質は何か知らずに，高所で街づくりを考えていなかったか．問題は多種多様である．自分たちの住む町が住みやすければ良い．われわれは，土木屋以前に市民として，住民の要求を身体で知る必要がある．この上で知り得た知識を基に街づくりを始めなければならない．

都市の歴史，街のあゆみを知り，建築，造園，経済等のあらゆる分野をコーディネイトする土木屋．こうして小粋な設計も出来るし，愛すべき町が自然に出来上がる．

土木屋さんは，こんな絵心のわかる何でも屋さんでなくてはならないと思う．

（筆者・*Ken-ichi KATAYAMA*，正会員　北九州市建設局　戸畑建設事務所工務課）

夢を育くむ“遊び心”

渡辺恭久

私が乗っているのは，最近就航したばかりのロサンゼルス一名古屋直航便．しかも，成層圏飛行の超々音速旅客機である．ウトウトとする間もなく，「シートベルトをお締め下さい」というアナウンスに目を覚ます．小さな窓から外を見ると，青々とした伊勢湾に，ポッカリ浮かぶ空港がみるみる近づいてくる．「もう名古屋へ着いたか，つい2時間前にロス空港を飛び立ったばかりなのに」と私は隣りのかわいい孫娘に言うともなくつぶやき，……….21世紀にはこんな話しが実現していると思う．

私は，現在，財団法人中部空港調査会に名古屋市からの派遣職員として勤務している．この財団は昨年12月末，中部地域に新国際空港を建設するという，大きな夢の実現に向けて発足したばかりである．

“夢の実現”，*Civil Engineering* とは人々の夢を実現するための技術といえるのではないか．わが国では，本州四国連絡橋，青函トンネルなど，つい半世紀前には夢物語であったものがもう完成間近である．海の向うでは英仏両国民の夢をのせて，ドーバー海峡トンネル計画がその実現に向けて第一歩を踏出した．

しかし，歴史に刻まれるような大プロジェクトにすべての土木技術者が携われるわけではない．多くの土木技術者は，大プロジェクトはおろかプロジェクトと名が付くような夢のある恵まれた仕事に携わることはまれであろう．

私が携わってきた分野である市街地土木の場合，自然相手というよりも，まさに人間社会相手といった感の方